

防災  
まちづくり  
大賞 20年

## 第7回受賞

# ラジオ番組「ネットワーク1・17」は 走り続ける



毎日放送 ラジオ局制作センター(記者) 亙 佐和子

1995年1月17日早朝、私は神戸の自宅で、倒れてきた家具の下敷きになりました。当時、入社2年目の駆け出し記者。何がおこったかよくわからない中で、両親に救出されるまでの間に考えたのは、「関西でこれだけ揺れたのなら、東京は壊滅しているにちがいない」ということでした。地震は東日本で起こるものと思い込んでいて、まさか自分が生まれ育った神戸の街を震度7の揺れが襲うなんて、考えたこともありませんでした。私だけではなく、多くの人が根拠なく、「関西に大きな地震は来ない」と思っていました。

ラジオ番組「ネットワーク1・17」(日曜午前5時30分～6時)は、この阪神・淡路大震災の反省から始まりました。地域の放送局として、地震の危険性をきちんと伝えることができているのか、もっときちんと啓発報道をしていけば、これほど多くの犠牲を出さずにすんだのではないかと。MBSラジオは、1995年4月、被災した人たちに寄り添い、必要な情報を伝えようと、手探

りで番組をスタートさせました。当初はライフラインの復旧状況や行政・ボランティアの支援情報など、伝えなければならないことが多すぎて、たいへんだったそうです。行政から提供される情報だけでなく、リスナーから寄せられる給水車や炊き出しの情報も貴重でした。

あれから22年、放送回数は1,055回(2017年2月末現在)を数えます。現在は「震災の記憶を語り継ぎ、次なる災害への備えを呼びかける」ことを、番組の柱にしています。キャスターもスタッフも当初とはすっかり入れ替わりましたが、時代に合わせて形を変えながら、バトンは引き継がれています。私自身は東日本大震災が起こった2011年から、この番組に関わるようになりました。

「あー、すごい津波だ。家とか船とか、流されている。」東日本大震災の発生から50分後、被害の状況がまだほとんど伝わってこないときに、MBSラジオで電話リポートしてくれたのは、宮城県気仙沼市に住む「災害リポーター」の方でした。「ネットワー



阪神・淡路大震災発生後のラジオ局(1995年1月)



「ネットワーク1・17」収録スタジオ(2016年6月)

ク1・17」では、全国各地の約20人に「災害リポーター」をお願いしています。何か災害が起こったときに、すぐに電話をつないで話をしてくださる方々です。東日本大震災のときは、東北のリポーターが大活躍しました。前述の気仙沼市のリポーターは、3月11日夜の早い段階で、「気仙沼湾が燃えている」と、津波火災が発生していることを知らせてくれました。自衛隊が撮影した気仙沼の火災映像がテレビで流れ始める何時間も前のことです。「ネットワーク1・17」が結んだネットワークは、いざというときに大きな力を発揮しました。

長く続けることの大切さを改めて実感する機会も多くあります。番組スタッフで制作したドキュメンタリー「ネットワーク1・17『20年～大震災と向き合う日々』」（2015年1月26日放送）は、ギャラクシー賞ラジオ部門優秀賞や日本民間放送連盟賞ラジオ報道番組部門優秀賞を受賞しました。「ネットワーク1・17」に出演していただいた震災遺族の方々の20年を追った番組です。幼い子ども2人を失った悲しみを抱えながら新たな一歩を踏み出した家族、震災遺児である現実と向き合い防災を学ぶ女子大学生。「ネットワーク1・17」は、出演してくださったゲストや災害リポーター、そしてリスナーの方に支えられています。

「ネタに困ることはありませんか？」とよく聞かれます。実は、ネタがなくて困った経験は、いちどもありません。日本は地震の活動期に入り、東日本大震災、熊本地震、そして台風や水害・火山の噴火など、災害はいつもどこかで起こっています。2008年の四川大地震、2015年のネパール地震など、海外の大災害もテーマにします。さらに、防災活動に熱心な地域やグループも、



熊本の被災地を取材する筆者（2016年4月）

頻繁に取材しています。また、仙台市に本社のある河北新報社と共催した防災ワークショップ「むすび塾」や、放送開始20年を記念して開催した「子ども防災イベント」など、啓発イベントにも取り組んでいます。

これからは「みなさんと一緒に考える番組」を目指します。防災報道は紋切り型で説教くさくなることが多いのですが、「真先に逃げるか、人を助けてから逃げるか」「車避難は是か非か」など、災害時に私たちが直面する諸問題に、決まった答えはありません。考えを押し付けるのではなく、解決できないような難しい問題をみなさんに投げかけて、アイデアを寄せていただくような内容にしたいと思っています。特に力を入れたいのは高齢者や障害者・外国人など「災害弱者」の命を守ることです。関心を持ってくださった方は、番組ホームページをのぞいてみてください（<http://www.mbs1179.com/117/>）。過去の放送の音声も全て、ポッドキャストで聞けるようになっています。防災への熱い思いと知恵が集まってくるようなプラットフォームを目指して、「ネットワーク1・17」は走り続けています。